

## 第410回: 肅軍の嵐

前回のコラムで、筆者は「中国で5年に一度開かれる中国共産党第19回全国代表大会(19大)が、10月18日から開催されると公表されたが、これは中国の政治が安定を取り戻しつつあるポジティブ・サプライズである」と書いた。

5年前の前回大会では、江沢民派と胡錦濤派の意見調整が難航し、大会が11月にずれ込んだのだが、今回は習近平主席がリーダーシップを発揮して、北戴河会議を円満にまとめ上げ、政治日程を前広に決めたと評価したのだが・・・。

しかし習主席が政権基盤を強化するために大鉈を振るっている中国人民解放軍(PLA)の大改革の行方がどうも気になる。主旨はわかるが、いくらなんでもチョットやり過ぎでは?それに、少し私闘、私怨の要素も入り込んでいるのではないだろうか。

中国当局は沈黙を守っているが、どうやら約200万人の将兵を率いるPLA指導部の中核をなす**房峰輝**(66)前・聯合参謀部参謀長と、**張陽**(66)政治工作部主任に続き、**呉勝利**(72)前・海軍司令員も身柄を拘束されたようだ。

**馬曉天**(68)空軍司令員も先月更迭され、これが通常の人事異動か、それとも失脚かで論議を呼んでいる。それに加えて**杜恒岩**(66)政治工作部副主任も失脚したのではと噂されている。この5名はPLAで僅か30数名しかいない最上位の上将で、共産党中央委員も兼務している(PLAは1955年に10元帥と、10大将を任命したのが最初で最後の発令、以降は上将が最上位ポスト)。

いまPLAを束ねる中央軍事委員会は、主席と二名の副主席を含む11名で構成されている。主席はもちろん習氏であり、彼を支える副主席は**范長竜**・陸軍上将と、**許其亮**・空軍上将が専従で勤めている。

残る8名はPLAの要となる①国防相、②聯合参謀部参謀長、③政治工作部主任、④後勤保障部長、⑤装備発展部長、⑥海軍司令員、⑦空軍司令員、⑧ロケット軍司令員が、兼務で軍委の委員を勤めている。呉勝利は今年初めに海軍司令員から退いたが、軍委委員ポストはまだ手放しておらず、19大で引退するときに返上すると誰もが思っていた。

①～⑧はPLAの頂点に立つ最高ポストだが、なかんずく②③は、①の国防相よりも上位のポストであり、今回の事変を戦前の大日本帝国に譬えると、現役の陸軍参謀総長と、教育総監に、海軍大臣を加えた三将が、まとめて軍法会議に引きずり出されたようなものだ。

これは習近平主席による大改革と呼ぶよりは、軍事クーデタに限りなく近い「肅軍」そのものではないだろうか。トゥハチエフスキー事件の再来だ・・・とまでは申しませんが。

保守系の夕刊フジが大喜びして9月2日、「習氏、中国軍にも恐怖政治 強引な権力掌握で党内闘争激化、前海軍司令官ら軍中枢すでに拘束・更迭4人」と大見出しを打ったのは、ごもつとも。

PLAの大物失脚といえば、江沢民/胡錦濤時代、約10年に亘ってPLAに君臨した徐才厚、郭伯雄という

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

1/3

軍委副主席経験者が14年に検挙されたのが近年最大の大捕り物だが、彼らは引退後の失脚である。

徐才厚と郭伯雄はPLA資産の着服や横領、将官ポストの売買等の汚職の容疑で失脚したのだが、PLAの悪しき金権体質が、彼ら限りで終わらず、後輩にも引き継がれていたことが、これで証明された。

習近平主席は、「こんな腐敗塗れの軍隊が実戦で機能できるわけがない」と、烈火の如くに憤り、怒りて髪は冠を衝く勢いだ・・と思う。

習さん、年齢のわりには頭髮が豊かなので、盟友でバーコード頭の王岐山氏とは異なり、多少軍帽を衝き上げるくらいのことはできる・・だろう。

そんなわけでPLAに危機感を抱いた習主席は、恥を忍び「戦って勝てる軍隊をつくれ」と、言わずもがなのことまで云って、昨年12月にPLAの7大軍区を5大戦区に再編し、同時にこれまで腐敗の温床となっていた総後勤部や総装備部等の中央指導部を、「7部」、「3委」、「5弁公室」にバラバラに組み替えるという、大組織再編を断行した。

そして、然る後に総仕上げとして、いま腐敗した將軍どもを強行突破で摘発しているようだ。

全国大会の19大が10月18日から始まる関係で、タイムリミットを8月末と定めたのかも。時間が迫っている関係で、人事異動を後回しにしたのは、やむを得ない緊急措置なのだろう。

だから房峰輝の身柄を拘束した後に、李作成(63)陸軍司令員が後任に親補され、彼が先月末になって突然参謀長の肩書でタジクスタンの大統領と会談したものだから、関係者は腰を抜かしたのである。

こんなことが日常的に行われている国は北朝鮮くらいのもので、中国においては(過去前例がないわけではないが)、やはり異常な事態ではある。

このニュースが事実だとすれば、失脚幹部がまた増えた。5年前に誕生した党中央委員たちの「その後」を再度総括すると以下のとおり。筆者の知る限り、死亡による欠員は1名、残りは悪事による失脚だ。

失脚高官統計	中央委員 205名中	21名
	中央委員候補 171名中	16名
	全委員 376名中	37名

よって失脚率は 37/376=10%

一国の最高指導者376人の約1割が不正腐敗の容疑で失脚し、彼らのほぼ全員が牢屋行きとなるような国って、現在、過去に例があれば知りたいものだ。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年9月4日

## 筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第121号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

## ご投資にあたっての注意事項

### 手数料等およびリスクについて

#### ① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

#### ③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。

投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。

投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

#### ④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

### ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

---

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3

